ごん吉くんしポート ～南吉よもやま話～

第30回 南吉が愛した少女たち

昨年、新美南吉が安城高等女学校で担任した教え子の方々が相次いで亡くなられました。南吉から頼まれ原稿の清書をした山崎美枝子さん。南吉を女学校に招いた恩人である佐治校長の娘の竹内孝子さん。そして、9月には南吉が目をかけた生徒の一人で、日記にも多く登場する野村惇子さん（旧姓高正・91歳）が亡くなられました。

惇子さんは読書家で作文が得意でした。南吉は、彼女の作文を「坪田譲治の短編を連想させる」と評したり、新聞社に送る原稿の清書や掲載された新聞の切り抜きを手伝わせたりしています。

精神的に大人びていた惇子さんを、南吉は時に女性として見ていることもありました。その一方で、やはりまだ子どもだと感じるところもあり、「もし僕がもう五歳若かったら、僕は必ず彼女を愛したらう。」と日記に告白しています。

4年生の春、惇子さんは父の転勤のために安城を離れることになりました。しかし、転校後も南吉は手紙を通じて彼女の学業を励まし、その成長を喜びました。それから2年後、南吉は病魔に倒れます。女学校を休職し、死の床に臥せる南吉を励ましたのは、惇子さんからの見舞いの手紙でした。それに対する南吉の返信が残っています。

「いしや（註・医者）はもうだめと／いひましたがもういつぺん／よくなりたいと思ひます／ありがと／ありがと／今日はうめが咲いた由」（昭18・2・26）

死を前にした南吉が、教師でもなく、男性でもなく、一人の人間として素直に感謝の気もちを伝えようとしたのでしょう。

惇子さんをはじめ、安城で出会った大勢の教え子たちは、孤独に悩みながら生きた南吉にとって大きな宝物といえます。

今年は南吉が女学校に赴任してちょうど80年です。3月には、記念の行事をしますので、ぜひご参加ください。

▲転校する惇子さん（右から3人目）を囲んで。南吉は左端。

●**3月3日㈯** 講座「南吉が愛した少女」～ある教え子との出会いと別れ～

●**3月17日㈯** 安城バス見学会「新しくて懐かしい安城を歩く」

●**3月21日㈷** 朗読コンサート「南吉が出会った少女たち」～安城ゆかりのクラシック音楽と共に～

※詳しくは新美南吉記念館にお問い合わせください。

☎0569-26-4888

アンケート

Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。

Q2 今月号を読んだきっかけに行動したこと、または、したいことはありましたか。

Q3 取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-0833
東洋町2-1　企画課
Eメール
kouhou@city.handa.lg.jp

編集後記

2月1日号のアンケートの回答をさっそくいただきました。読者の方のお言葉はとても参考になりますし、もっと頑張ろうという気持ちにさせてくれます。ありがとうございます。

最近は雪が降ったり、とても寒い日が続きました。辛い食べ物や温かい食べ物が美味しい時期でもありますね。私は激辛ラーメンを食べて、気合を入れました。

さて、3月は桃の節句です。気温もだんだん暖かくなってきて、市内でも様々なイベントが開催されます。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょう。（K）

VEGETABLE OIL INK
植物油インキ使用
再生紙使用
印刷　東海通信印刷㈱

編集・発行　半田市企画課　〒475-8666 半田市東洋町二丁目1番地　☎0569-21-3111（代表）　FAX0569-25-2180
毎月1・15日発行（5月・8月・12月は月1回）　http://www.city.handa.lg.jp/　Eメール　kouhou@city.handa.lg.jp

情熱、蔵出し。半田市。